

UVインキ

UV フラッシュライト対応 墨 シリーズ

高速プリンターのトナー定着方式として、キセノンフラッシュランプによる方式と熱ローラーによる方法とがあります。このうち、熱ローラーによる定着方法の場合には耐熱性を付与した“UV RNC 墨”、“UV NVR 墨”タイプで印刷すれば、トナー印字の際のトラブルもありません。しかしフラッシュライトによる定着の場合は、フラッシュライトの出力によっては墨インキ被膜に脆化が認められ、ひどい場合には墨インキが変色・消失するなどのトラブルが発生することがあります。

この問題に対して『UV フラッシュライト対応 墨』は、一般墨インキに使用しているカーボンブラックを他の顔料で代替し黒く見えるよう調整することでフラッシュライト定着時の脆化トラブルを解決しております。

当社UVインキには、『UV フラッシュライト対応 墨』インキとして以下を取り揃えております。

インキ名	特 徴	減感インキ 耐性	耐光性
UV HR FL コンク墨	耐熱性・乾燥性が良好な汎用タイプです。	×	1
UV NVR FL 墨	当社フォーム印刷用UVインキの中で最も乾燥の速いNVRタイプのフラッシュライト対応墨インキです。特に印刷スピードを速くしたい場合にご使用ください。	×	1～2
UV NVR FL 耐性墨	UV NVR FL 墨と比較して濃度が下がりますが、減感インキ耐性を付加させたタイプです。	○	3
UV SD FL 超耐光性墨	密着性を重視したタイプでユポ紙などインキの密着性が良くない用紙に印刷する場合ご使用ください。墨濃度はかなり薄くなりますが、屋外使用に耐えられる耐光性を有しています。	○	6

耐光性：8(優) ⇔ 1(劣)

■ 使用上の注意

- ▶ 上記のインキは全て、ノーカーボン紙にも対応できます。
- ▶ フラッシュライト出力が高すぎる場合やインキの盛り過ぎの場合には、この『UV フラッシュライト対応 墨』を使用してもトラブルが発生することがありますので、事前にフラッシュライトプリンター実機にてご確認ください。
- ▶ カーボンブラックを使用していないためPCS値が低く、リードカラーとして使用できませんのでご注意ください。なお、リードカラーとして使用される場合は別途“UV フラッシュリード墨”シリーズをご使用下さい。

- ▶ 記載のデータは、当社の試験方法による実測値であり、規格値ではありません。ご使用に際しては、貴社使用条件に適合するかを必ずご確認ください。なお、本文中の用途はいかなる特許に抵触しないことを保証するものではありません。
- ▶ 製品改良のため、予告なく内容を変更することがあります。
- ▶ 製品使用の際は、必ず事前に安全データシート(SDS)をご一読願います。

- ▶ カーボンブラック顔料を含んだ一般墨インキが混入いたしますと、十分な性能を得られませんので、色変えの際には完全に洗浄してご使用頂くようお願いいたします。
- ▶ フラッシュ脆化耐性は、『UV FL 墨(フラッシュライト対応墨)』 > 『UV フラッシュリード 墨』 >> フォーム用一般UV墨 の順になります。
- ▶ 通常の墨インキと比較しますとインキ濃度がありませんので、盛り過ぎによる硬化不良、地汚れ等にご注意下さい。
- ▶ 特色インキにもご使用になれます。その際は、“UV RNC”の特色の場合は『改 UV HR FL コンク墨』を、“UV NVR”の場合には『UV NVR FL 墨』又は『UV NVR FL 耐性墨』をご使用下さい。
- ▶ インキ盛り過ぎやランプの劣化により、硬化不良・密着不良が発生する可能性がありますので、ご注意ください。
- ▶ 助剤・洗浄剤・版材については、UVインキ用のものをご使用下さい。
- ▶ 火気に注意し、作業場は十分に換気し、紫外線や直射日光を避けて取り扱って下さい。吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れない様に適切な保護具を着用下さい。衣類等に付着した場合は、直ちにその汚れを落とし着替えて、汚れ部分が長時間接触することを避けてください。取り扱い後は、手洗いとうがいを十分に行ってください。
- ▶ 目に入った場合、直ちに多量の水で15分間以上洗い流し、眼科医の手当を受けてください。皮膚に付着した際は、汚染衣服や靴等の汚れを落とした後、付着部または接触部を石鹼水で洗浄し、多量の水を用いて洗い流してください。もし、皮膚に炎症やかゆみを生じた場合には、直ちに医師の手当を受けてください。
- ▶ 本製品を御使用の際には、事前に安全データシート（SDS）を良くお読みください。



印刷インキ工業会

2022/01/25 No.W-2

- ▶ 記載のデータは、当社の試験方法による実測値であり、規格値ではありません。ご使用に際しては、貴社使用条件に適合するかを必ずご確認ください。なお、本文中の用途はいかなる特許に抵触しないことを保証するものではありません。
- ▶ 製品改良のため、予告なく内容を変更することがあります。
- ▶ 製品使用の際は、必ず事前に安全データシート(SDS)をご一読願います。